

AGU Fall Meeting 2019 参加報告

氏名：藤井 亮佑

所属：SSt 研究室（修士2年）

滞在期間：令和元年12月8日～12月13日

滞在先：サンフランシスコ

滞在国内：アメリカ合衆国

この度、私はアメリカ合衆国、サンフランシスコにて開催された、AGU (American Geophysical Union) Fall Meeting 2019 に参加いたしました。惑星科学や、太陽物理学、磁気圏物理学など、発表が行われていた研究内容は多岐にわたるものであった。世界中から最先端の研究者が集まる国際学会であり、その規模は非常に大きく、ポスター発表だけで日に3,500件以上の発表が行われており、いたるところで活発な議論が交わされていた。

私自身の発表としては、”Statistical analysis for trunk structure of ring current ions using Arase ion observations” というタイトルで、ポスター発表を行った。内部磁気圏のイオン分布を衛星により直接観測し、得られたデータを解析することで見られる特徴的な構造についての統計的研究である。発見、報告されて間もない構造であるため、統計解析を行った研究は本研究が世界初である。こういった構造はその形成メカニズムが内部磁気圏の特性に起因するものであるため、その理解は非常に重要なものである。そのためか、多くの研究者が私の発表を聞きに来ていただき、議論を重ねることができた。しかし、英語での議論にあたり、とっさに言葉が出ない、なかなか相手の言葉が聞き取れないなど、幾度か困難を感じる場面があった。とは言え、研究者の多くが英語のネイティブスピーカーでないこともあり、こちらの英語レベルに合わせて会話していただけのため、一切議論ができないというような状況になることはなかった。しかし、日本語での議論と比べると、どうしても議論の密度は薄くなってしまったと感じた。この英語でのコミュニケーション力という点については今後の課題であると感じた。

また、本研究において、私たちは全く新たな構造を発見し、その報告も行った。しかし、この新たな構造と非常に類似した構造について同様に発見、報告を行っている発表があった。私たちとは異なった解析手法、アプローチを取っており、互いにとても役立つ議論ができた。

主著者である Lee 氏とは、連絡先の交換も行えたため、今後もメール等を通じて活発な議論を重ね、研究を深めていきたい。

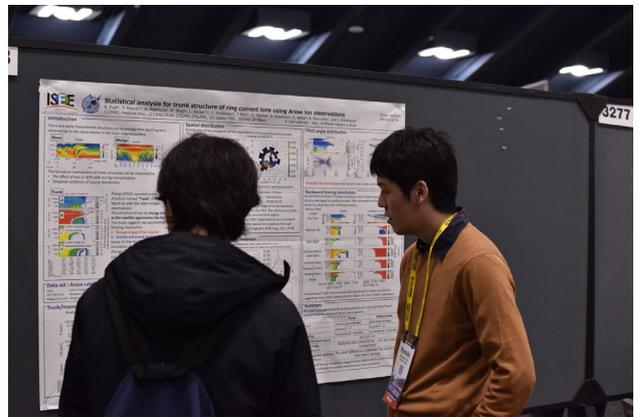


図1 参加風景

<指導教員>

三好 由純